

1 研究主題

児童が税を身近に感じ、税に関する興味・関心を持つための指導の工夫
～課題設定の工夫と学び合いの学習を通して～

2 主題設定の理由

納税は、日本国民の三大義務の一つであり、社会が成り立つために必要不可欠なものである。児童にとっても、学校生活における身の回りの物、日常生活における様々な公共物に税金が関わっており、生活の基盤となっているとも言える。

しかし、5年生の児童にとって「税金」に対する知識は大変乏しく、社会科でも6年生の学習内容となるため、ほぼ税金について何も知らないといっても過言ではない。税金が自分たちの生活にとって、必要不可欠なものであるという認識もないようであった。そのような中、子供たちが唯一知っていると答えた税金が「消費税」であった。今年度10月より消費税が8%から10%に引き上げられるという時期とも重なり、増税への関心も高いことが分かった。

そこで、まずは児童が税金を身近に感じ、税金に興味・関心を持たせることが、納税の意識と正しい知識を持つための第一歩と考えた。そのため、5年生という発達段階も考慮し、子供たちにとって一番身近な「消費税」を中心に課題設定を行い、自分たちで調べ、情報交換し、まとめていくという学び合いの学習を進める中で税金への興味・関心と納税の意識を高めることができると考え、本主題を設定した。

3 研究目標

消費税という、児童にとって身近な税金から課題を設定し、児童自ら調べ、考えさせることで、税金に対する興味・関心と正しい知識を身に付けさせる指導の在り方を探る。

4 研究の方法

- (1) 税金に関する意識調査を行い、児童の実態を把握する。
- (2) 租税教室や税理士の方の話を聞くことで、興味・関心を高め、意欲的な学習につなげる。
- (3) 導入では、税金に関する話し合いや簡単な説明を行い、消費税増税の話題から課題設定へとつなげる。
- (4) 課題の内容ごとにグループを編成し、複数で調べ活動をさせる。その際は、インターネット、本、「わたしたちのくらしと税金」を活用させる。
- (5) 発表会を適宜行い、調べた内容を共有して知識を広げる。
- (6) 学習を通して、分かったことや自分の考えの変化についてまとめさせ、事前との変容を考察する。

5 研究の計画

時 期	研究内容
令和元年 6 月	事前意識実態調査・分析
	租税教室①
7 月	課題設定, 調べ学習
	租税教室②, 調べ学習, 発表会準備
10 月	発表会, 振り返り
	研究のまとめ
11 月	研究発表会

6 指導計画 (詳しい指導計画については別紙1)

	段 階	主な学習内容	時間	実際
事 前	実態意識調査	・税に関する意識実態調査を行う。		
第1次	①税金について知ろう	・租税教室を開き, 税の基本的な知識と意義や役割について知る。	1	1
	②学習の見通しを立てよう	・税に関する学習の見通しを立て, 課題設定とグループ決めを行う	1	1
第2次	①消費税について調べよう1	・本やパンフレット, インターネットを活用し, 課題について調べる。	2	2
	②税金のプロに質問しよう	・租税教室を行い, 調べ学習の中で出てきた疑問について質問し, 解決する。	1	2
	③中間発表をしよう	・中間発表を行い, 現段階で分かったことについて情報交換を行う。	1	1
	④消費税について調べよう2	・本やパンフレット, インターネットを活用し, 課題について更に調べる。	3	3
第3次	①調べたことをまとめよう	・調べたことを模造紙にまとめる。発表原稿をまとめる。	3	5
	②調べたことを伝えよう	・発表会に向けてグループごとにリハーサル, 練習を行う。	1	2
	③発表会をしよう	・発表会を行う。	1	1
第4次	○学習を振り返ろう	・学習の振り返りを行う。	1	1
		合計時数	15	19

7 研究の概要

(1) 児童の実態 (事前意識調査)

(令和元年6月25日実施 対象: 5年1組 男子17名 女子15名 計32名)

①「税」について知っていることは何ですか。

- ・税金（18人） ・消費税（23人） ・税込み（10人） ・税抜き（10人）
- ②税金は必要だと思うか。
- ・必要（5人） ・必要ではない（5人） ・分からない（22人）

【考察】

「税」と聞いて「税金」や「消費税」という言葉は思い浮かぶが、それ以外の税に対する知識がほとんどないことが分かった。また、知識がないため、必要かどうか分からないという考えが多いようであった。児童の反応を見ると、税の話は難しいと感じているのか興味・関心の低さが伝わってきた。

そこで、税金が自分たちの生活に直結する身近なものであることを知り、関心を高めることが大切であると考えた。

（2）実践の概要

【第1次】

①税金について知ろう（1時間）

仙台南法人会の方を講師としてお招きして租税教室を開催し、税金の種類や必要性など、基本的な税の意義や役割について学習した。その中で、「消費税」に着目し、もしも消費税がなかったらどのような生活になるかという内容のDVDアニメ「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を視聴したことで、消費税の意義と税金の大切さを実感したようであった。



租税教室で税金について学習



1億円のレプリカで重さの体験

②学習の見通しを立てよう（1時間）

画像資料を活用して税金について簡単に復習し、さらにこれから開始される消費税増税の話題から子供たちにとって身近な「消費税」について疑問を持つことができるような導入を行った。今後、「消費税」について詳しく調べていくことを確認し、調べたい内容が似ている児童同士でグループを編成して共に調べて学習を進めていくこととした。グループは、「消費税の使われ方を調べる」「消費税の歴史について調べる」「消費税の外国との比較について調べる」「軽減税率について調べる」という4種類のテーマで6チームが編成された。



税金・消費税についての確認



課題別チーム編成

【第2次】

①消費税について調べよう1（2時間）

まずは、インターネットを活用した税金の調べ活動の仕方について指導した。「国税庁のホームページ」を活用することを統一し、アクセスの仕方と調べ活動に効果的なページの紹介を行った。それから、自分たちの課題について調べ、調べる中で分からないことや疑問点をまとめるようにさせた。

②税金のプロに質問しよう（2時間）

税理士の方2名をゲストティーチャーとしてお招きし、子供たちが知りたいこと、調べていて疑問となったことを質問し、それに対して丁寧な解説をいただいた。「税理士の方が用意された税に関する話を聞く時間」ではなく、「子供たちの質問に答えていただく時間」として設定したことは子供たちの意欲向上と課題解決につながり、とても有効であった。



税理士の方からの説明



たくさんの子供たちが質問しました

③中間発表（1時間）

課題に対して、現段階で分かったこととこれから更に調べていきたいことについて報告する時間を設定した。時間短縮のため、発表資料は、学習中にとったメモをそのまま活用させた。アイパッドで撮影し、テレビ画面に画像として提示することで資料作成の時間を削減することができた。また、中間発表として友達の発表を見聞きすることで、自分たちのグループの調べた内容と比較することができ、更なる意欲へとつながった。



アイパッドを使っでの中間発表



画像による発表資料の提示

④消費税について調べよう 2 (3時間)

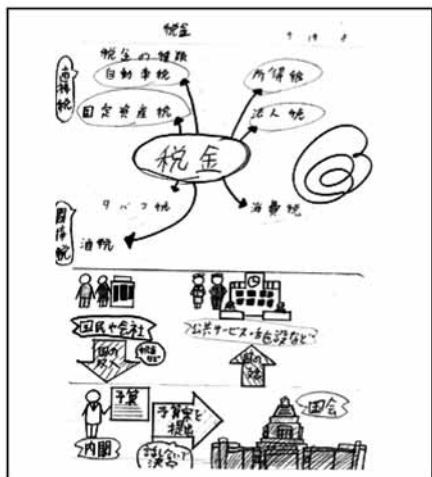
税理士の方との学習や中間発表により、更に意欲が高まった中で、調べ活動の続きを行った。この頃には、税務署の方に依頼した「わたしたちのくらしと税金」のパンフレットが届いたため、インターネットとパンフレット、図書館の本を活用しながら調べ学習を進めることができた。パンフレットは、5年生の子供たちにとって分かりやすい資料として効果的だった。また、子供たちは発表会の資料作成を見据え、必要な資料を印刷したり更に深く調べたりする活動を行っていた。家庭の自主学習で、自分の課題について学習してくる子も増え、興味・関心の高まりを感じた。



インターネットでの調べ活動



パンフレットや自主学習ノートを使って



子供たちの自主学習ノート



新聞記事を活用しての自主学習

【第3次】

①調べたことをまとめよう（5時間）

発表資料は、各グループ1枚の模造紙にまとめるようにさせた。子供たちがその方法に親しんでいて取り組みやすいということと、1枚にまとまっていることで全体が見やすいということが選択の理由である。また、「税」という難しい内容の学習なので、個人の力だけではなく、相談したり教え合ったりすることでまとめ活動が効率よく進められるであろうと、児童の実態も考慮した。

子供たちには、資料作成のポイントとして「資料の見やすさ」に注意させた。文字や文章が多すぎる資料になりがちなので、図や表やイラストの活用、色の効果的な使い方、レイアウトなどの工夫についてアドバイスしてから取り組ませた。1枚の模造紙に複数の子供たちがまとめるという作業で、予想より時間が掛かってしまったが、意見を出し合って工夫し、別紙でクイズを作成するなど、それぞれが満足のいく発表資料が出来上がったようであった。



グループで発表資料を作成



グループで発表原稿を整理

②調べたことを伝えよう・発表会（3時間）

発表会に向けた準備とリハーサルの時間を2時間確保した。相手に見やすく分かりやすい発表になっているかを工夫しながら、各グループで原稿の手直しや資料の訂正、5分程度という時間枠での発表の練習を行うことができた。

発表会は、校長、主幹、教務の先生方に来ていただき、発表意欲の向上を図った。子供たちは、他のグループの発表を聞くことで、消費税に関して更に深く学習することができ、「発表会が楽しかった。」「聞いて、さらに勉強になった。」という感想が多く見られた。

〈消費税の使われ方を調べたグループ〉

- ・ 税収の多くに消費税が充てられていることから、税金の使われ方が消費税の使われ方になるという前提で調べさせた。
- ・ 税理士の方から教わった、社会保障の「こ」（子育て）「い」（医療）「ね」（年金）「か」（介護）「よ」（幼児教育）の5文字のキーワードについて詳しく説明していた。
- ・ 公共物、国や町のため、みんなの助け合いのお金なのだということをまとめていた。

〈消費税の歴史を調べたグループ〉

- ・ 税のシステムが、邪馬台国の卑弥呼の頃から始まっていたことや、租庸調などのように昔はお金ではなく、物や労働で納めていたことなどを年表を使ってまとめていた。
- ・ 平成元年に始まった3%の消費税からの変遷についてまとめていた。
- ・ 「歴史」の学習をまだしていない5年生の子供たちにとっては、歴史上の人物や用語の理解に苦労したようだった。一つ一つの用語について、調べて学習を進めていた。

〈消費税の外国との比較について調べたグループ〉

- ・日本の8%（現在10%）の消費税が、世界の国々と比較すると低い方であることを表やグラフを使ってまとめていた。
- ・消費税の高い国や低い国をランキングにしてクイズを出題していた。
- ・消費税の高い国は、社会保障が充実していることを紹介したり、外国には日本にはない税の仕組みがあることなども紹介したりしていた。

〈軽減税率について調べたグループ〉

- ・国民のため、生活必需品の食料品には軽減税率が適用されることを、イラストで分かりやすくまとめていた。似たような商品でも軽減税率が適用される場合と、そうでない場合に興味を持ち、詳しく調べていた。税理士の方に質問したことも、発表に十分生かされていた。
- ・学習中、10月に入った段階で増税が始まり、さっそく買い物をしたレシートを手に入れるなど、実体験や実物を参考にしていた。



発表会の様子「外国との比較について」



発表会の様子「消費税の使われ方について」



校長先生から感想をいただきました。



発表資料の例

【第4次】

①学習を振り返ろう（1時間）

これまでの学習を通して学んだことや、税のことを学ぶ前と学んだ後で、考えがどのように変わったかを振り返らせた。

- ・この学習を通して消費税率の外国との比較について考えました。日本は世界と比べると比べると消費税が低い国だということに驚きました。また、税理士の方のお話を聞くまでは、税について興味もなく、消費税などなくてもよいのではないかと考えていましたが、税は大切なものというよりなくてはなくてはならないものであることに気が付きました。
- ・学習する前は、「税金なんてなくてもよい。」と考えていました。何に使われているかを知らなかったからです。でも、この学習を通して考え方が変わりました。火事になったら消防車が出動してくれることや授業料を払わなくても学校で勉強できることも税金のおかげだと分かって、「税金は私たちみんなのためにあるから、必要なものだ。」と思うようになりました。もっと税金について調べたくなりました。これからは、困っている人や高齢者にもっと税金をかけてほしいです。
- ・この学習を通して、千年以上も前から税があったことを知りました。昔は、食べ物や特産品、労働などを税として納めていたことも知れておもしろかったです。税金は、みんなにとって必要なものだと思います。他にも、色々な時代の税のことを知たくなりました。

税について学ぼう④まとめ

5年1組(小崎 蒼乃)

○ 10月 10日(木)

・税金について学習したことを生かして、学習する前と今の自分の考え比較し、まとめましょう。

私はこの学習をして、消費税をふくむ税金は、国のために使われていることがわかりました。また、学習する前は、「税金なんていらないんじゃない?」と思っていたけれど、学習してみると、税金は国のためにも私達のためにも必要なということがわかり、考えが変まりました。

〈国への提言書〉

税金の使い方は、計画的にし、かきと決めて下さい。

税について学ぼう④まとめ

5年1組(片岡 翼)

○ 月 日()

・税金について学習したことを生かして、学習する前と今の自分の考えはかくし、まとめましょう。

わたしは、この勉強を通してみて、外国には、ない物と外国にしかない税金があることが分かりました。日本には、国民の三大きむ「のう税のきむ、教育のきむ、」「ろうとうのきむ、」があることが分かりました。

他の国の調べることを聞いたなら、学校では教科本やパソコン、本などに、税を使っているのが分かった。

日本の借金を返すためには、もうひとつ消費税を上げた方が、良い。

税について学ぼう④まとめ

5年1組(桜井 彩花)

○ 10月10日(木)

◆税金について学習したことを生かして、学習する前と今の自分の考えがくし、まとめましょう。

私はこの学習をして、前は、消費税をとらるのがいやだったけど、税金のことについて調べたいろいろな事を知り、今は消費税をとらるのがいやにならなくなりました。むしろ、日本の税金を返すために税率を上げてくれるのではないかと思います。

学校の教科書、おつづえ、通学や年金、医療などにも税金が使われているということがわかりました。

他にも、今まで知らなかったような税の種類があり、おどろきました。

税金の歴史もとても古く自分で調べたことあり、税の外国の税金についてもとても知りたいです。

もし、税金が皆に使われているのが、ニュースなどで見たように知るようにしてほれです。

税について学ぼう④まとめ

5年1組(大谷莉々子)

○10月10日(木)

・税金について学習したことを生かして、学習する前と今の自分の考えがくし。まとめましょう。

わたしは、この学習で、税金の大切さを知りました。

(学習する前) (学習した後)

税金はいろいろなものがある。税金がないといふん……大切

→つまり8%と10%に分ける国民のために生計最悪けん
けい生活はないと思う。(税金もその一歩(やさしいかも!))

学習後2週間と経った。たり、気持ちの面でも、いろいろと変わり、税金関心を持つようになった。

わたしは税金を、15~20%にして大学のお金を少しにしたいです。

(4) 税に対する事後調査

(令和元年10月10日実施 対象：5年1組 男子17名 女子15名 計32名)

- ①「税金」という言葉を知っていますか。 はい(32人) いいえ(0人)
- ②税金について知っているものを書きましょう。
- ・消費税(22人) ・たばこ税(26人) ・酒税(15人) ・所得税(12人)
 - ・自動車税(9人) ・ゴルフ税(2人) ・ポテトチップス税(2人) ・関税
 - ・都道府県民税 ・固定資産税 ・入湯税
- ③収めた税金はどんなことに使われていますか。
- ・公共の施設や運営ため ・学校の物をそろえるため(教科書, 机, いすなど)
 - ・国のため ・みんなに役に立つことや助けることのため ・社会保障
 - ・みんなが安心安全に暮らすため ・日本を平和にするため
- ④税金は必要だと思うか。 必要(32人) 必要ない(0人) 分からない(0人)
- ⑤学習の中で楽しかったことはどのような学習ですか。
- ・課題設定, グループ編成(2人)
 - ・調べ学習(23人)
 - ・発表資料をまとめる学習(20人)
 - ・発表リハーサル(2人)
 - ・発表会13人(発表する学習5人, 発表を聞く学習8人)
 - ・租税教室, ゲストティーチャーとの学習(20人)

【考察】

事前調査と比較すると、税金に対する知識が増え、税金が必要だと考える児童が大幅に増えた。「税金が必要かどうか」という質問に対しては、全員が「必要」と答え、事前の結果と大幅に変化した。また、感想文からは、子供たちが意欲的に学習に取り組み、もっと調べたい・知りたいと感じたことが伝わってきた。主体的に調べたりまとめたりしたことで、有意義な学習になったことがうかがえた。

8. 成果と課題

(1) 成果

- ・初めに租税教室を行ったことで、税に関する関心が高まり、知識も得ることができたので、課題設定につなげやすかった。
- ・課題ごとにグループを編成して調べ学習を行ったことで、学び合ったり助け合ったりして学習を進めることができた。児童の実態に合っていて効果的であった。
- ・インターネットの調べ学習では、国税庁のホームページを活用させたことで、効率的に課題解決ができた。
- ・「わたしたちの暮らしと税金(小学校用)」を5学年児童分手配し、活用した。分かりやすい内容となっており、「使われ方」「歴史」を調べるグループに大変効果的であった。
- ・税理士の方をお呼びして、調べ学習で生まれた疑問を質問して答えていただく時間を設定した。直接の課題解決となったことで、より意欲が高まり、効果があった。
- ・税に関して興味が高まり、家庭の自主学習で取り組んでくる子供たちが増えた。

(2) 課題

- ・今年度、年間指導計画の中に、一時的に租税教室を位置付けた。例年の2学期の総合学習では稲作についてのまとめ学習をしていたが、それを削除した形となる。学習としては充実していたが、時数が多くかかっているため、継続するには検討が必要である。
- ・歴史や税の学習がない5学年の子供たちにとっては、難しい内容であった。課題の設定に工夫が必要であった。
- ・発表資料をまとめる方法を模造紙にまとめる形をとったが、全員で模造紙に書く作業に効率の悪さが見られた。各自が同時に作業を進められるような発表資料作成の方法をとると、更に時数の削減となるのかもしれない。

R1 5年 消費税について考えよう指導計画(10時間)

月	時	目標	学習活動	主な評価	主な支援	備考
9	1	・消費税について知る。	・消費税について理解し、課題を設定する。 ・調べたい課題ごとにグループを編成する。	・消費税について理解できたか。 ・意欲的に課題を設定できたか。	・消費税が理解できるように指導を工夫する。 ・課題は学級全体で一つにしぼりたい。	・課題は「使われ方」「軽減税率」が望ましい。
	2～3	・課題について調べ、ワークシートにまとめる	・課題について調べ、ワークシートにまとめる	・課題についてワークシートにまとめられているか。	・インターネットだけでなく書籍も準備して効率よく調べられるようにする。 ・プリントしたりコピーしたりして、書く作業を減らす。	・グループで活動することが望ましい。
	4	・ゲストティーチャーを招き、疑問点を質問して解決する。	・調べる中で分からないことを、税理士の方に質問して解決する。	・疑問点を整理し、意欲的に質問して解決することができたか。	・質問したことをまとめておくようにさせる。	・税理士の依頼。 ・音楽室の確保。
	5	・課題について調べたことを分かりやすく発表する。	・調べたことをクラス全体に発表する。 ・他者の調べたことをメモする。	・調べたことを分かりやすく伝えられているか。 ・聞き取ったことをメモしているか。	・メモやプリントしたものをiPadで映して発表させる。	
	6～8	・グループごとに課題に対する意見を話し合いまとめる。 ・模造紙に課題について調べたことと、それに対するグループの意見をまとめる。	・グループごとに課題に対する意見を話し合いまとめる。 ・模造紙に課題について調べたことと、それに対するグループの意見をまとめる。	・表や絵などを用いてまとめられているか。 ・グループの意見を説得力ある言葉で伝えているか。	・模造紙のまとめ方をアドバイスする。	・模造紙は多くても2枚にまとめる。
	9	・グループの伝えたいことを聞き手に伝える。 ・発表をする。 ・聞いたことから考えを深める。	・模造紙を使って、グループの伝えたいことを聞き手に伝える発表をする。 ・聞いたことから自分の考えを深める。	・グループの伝えたいことを聞き手に伝える発表ができたか。 ・他グループの発表を聞いて、自分の考えを深めることができたか。		・ビデオで撮影する。
	10	・消費税に対する自分の考えをまとめる。 ・税や政治に対する関心を高める。	・消費税についての自分の考えを国(自治体)や議員への提案書としてまとめる。	・自分の考えをまとめることができたか。	・ワークシートにまとめさせる。	・学習後の変容についてアンケートも取る。

